「2017年9月 印刷の月」　記念式典

功労賞12氏、振興賞18氏、特別賞2団体を表彰
第16回印刷産業環境優良工場表彰は14工場
「地域創生の視点から印刷業界を考える」をテーマに講演

一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する「2017年9月印刷の月」記念式典は、9月13日（水）午後4時30分から東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」で開催され、日印産連表彰で印刷功労賞12氏、印刷振興賞18氏、特別賞2団体が表彰された。また、第16回印刷産業環境優良工場表彰では、株式会社廣済堂・さいたま工場、株式会社太陽堂印刷所・第一工場が経済産業省商務情報政策局長賞、日印産連・会長賞5工場、同奨励賞7工場がそれぞれ表彰された。今年は、経済産業大臣賞、日印産連・特別賞の該当事業所はなかった。

このあと、午後6時から600名を超す参加を得て懇親会が盛大に開催され、表彰受賞者を囲んで和やかな歓談が繰り広げられた。

これより先、午後3時30分からは東京理科大学専門職大学院教授の生越由美氏を講師に招き「地域創生の視点から印刷業界を考える」をテーマに講演会を開催した。生越講師は印刷産業の将来像を詳細に解説した。

記念式典は、全員起立しての国歌斉唱に続き、主催者を代表して山田雅義会長が、ご出席のご来賓、会員、関連業界の出席者に御礼を述べた後、『日本印刷産業連合会表彰』受賞者、『印刷産業環境優良工場表彰』受賞事業所に祝意を表したあと、印刷産業の景況に触れ、「幅広い業種で業績回復により、上場企業の2018年3月期の決算では連結純利益で過去最高を更新する」との予測を披露した上で、「印刷業界においては、印刷総需要が停滞する中で、人手不足がバブル期以来の深刻な状況」と現状認識を示し、「原材料の値上がり、運送業界のドライバー不足による物流費の高騰が予想され、これらは印刷産業の成長に大きなマイナス要因になる」との懸念を表明。「印刷産業としてはこれまで培ってきた顧客との厚い信頼関係と技術力を基盤として、新たな価値の創出に邁進し、社会の発展に貢献していきたい」と力強い決意を表明。

主催者を代表して挨拶する山田雅義会長

一昨年着手したグランドデザインの取り組みに触れ、「昨年からは具体策の推進を図るため各委員会や部会の活動の中で、新たなテーマや企画を展開してきている」とし、印刷産業の新たな価値創出へのチャレンジを広く社会に訴えていくために、「9月に大阪で講演とパネルディスカッション、展示会、ワークショップを立体的に組み立てた『地域おこしめっせ2017』を開催する」とその成果を報告。「一般社会の生活者の方々に向けて、直接こうした情報発信をするイベントの開催は、日印産連としては初めてのトライアル」と意欲的な活動状況を紹介した。

さらに、7月後半から始めた『印刷と私』というコンテストを取り上げ、「印刷産業関係者、さらに広く一般の方に印刷に係る思い出や記憶に残る印刷

物などをテーマにエッセイ、作文を募集し、11 月の表彰式で小山薫堂賞をご本人に授与していただきます」と発表。

これらの取り組みは、「印刷産業がこれまで社会の中で果たしてきた役割、そしてこれから目指していく新しい役割などを多方面から紹介することで、印刷産業への理解をより深めていただくことに繋がるもの」と期待を表明し、こうした活動は、昨年より発刊した『社会責任報告書』で、年度ごとに報告する」とし、「今月末には、今年度版が完成する。印刷がいかに身近な存在で、なくてはならない製品やサービスを提供し続けていることや、社会の発展にどのように貢献していこうとしているのかをこれまで以上に一般の方に向けた強いメッセージとなる」とこれらの活動の効果に期待を表明した。

ついで司会者より出席のご来賓が紹介されたあと、代表して経済産業省商務情報政策局審議官 吉田博史氏が来賓祝辞に立ち、本式典で表彰される方々のご努力に祝意を表明した後、「印刷業界は全国の各地域に根差し、あらゆる産業を顧客としている大事な産業と承知しております。近年はインターネットやスマートフォンの普及、あるいはデジタル化の進展などを通じて多くの課題に直面していますが、事業領域の拡大、新しい技術開発への挑戦などを通じてこの業界がますます発展していくことを期待しています。

来賓祝辞・吉田博史経済産業省商務情報政策局審議官

経済産業省では IoT やビッグデータ、人工知能による第4次産業革命へ的確に対応するための道筋を示す新産業構造ビジョンを本年5月に策定し、さまざまな産業が繋がることにより新しい付加価値を生み出す Connected Industries というコンセプトを打ち出しています。印刷産業も厳しい中、会員企業の皆様の中には、こういった Connected Industries のコンセプトに沿うような異業種、あるいはさまざまな企業と連携をして新しい付加価値、ビジネスを生み出していくという取り組みを実践している会員企業もおられます。経済産業省は、そういう取り組みに対し応援しておりますのでぜひともお気軽にご相談いただければと思います。

また、大きく変化する時代に対応するためには、印刷業界における人材の育成も大事になります。政府は中小企業等経営力強化法に基づき、認定を受けた事業所の研修事業に対して、研修経費の 45%の助成を行う仕組みを設けています。印刷業界でも、公益法人日本印刷技術協会が『事業分野別経営力向上推進機関』として認定されています。経営から IoT まで幅広い研修を利用していただき、さらなる発展に活かしていただきたいと思います」と述べた。

この後、取引の適正化に触れ、「『中小企業者に関する国等の契約の基本

印刷功労賞

印刷功労賞受賞者を代表して表彰状を受ける
大門一平氏（秋田印刷製本㈱）

印刷功労賞受賞の諸氏

方針』がこの7月に閣議決定され、これにより、官公需における印刷発注に関する知的財産権の取り扱いを適正化することが明記された」とした上で、「これら取引を実施していく、つまり基本方針を身のあるものとしていくためには発注側、受注側双方がルールを正しく活用していくことが大事である」との考えを示し、適切な取引への協力を求めた。

続いて、平成29年度の日本印刷産業連合会表彰に移り、印刷功労賞、印刷振興賞、特別賞の表彰が行われた。

印刷功労賞には、別掲12氏（8頁）が表彰され、代表して秋田印刷製本株式会社・大門一平氏に山田会長より表彰状と記念品が授与された。このあと、壇上で、山田会長を囲んで記念撮影が行われた。

印刷振興賞には、別掲18氏（11頁）が表彰され、2組に分けて授与式が行われた。8氏が登壇した第1組は、代表して藤田良郎氏（瞬報社写真印刷株式会社）が代表して山田会長より表彰状と記念品が贈呈された。

2組目は、代表して田中潤一郎氏（有限会社田中凸版）に表彰状と記念品が贈られた。

各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与した個人・団体などに贈られる特別賞は、愛知県印刷工業組合、岐阜県印刷工業組合、三重県印刷工業組合、石川県印刷工業組合、富山県印刷工業組合、愛知県印刷協同組合（中部5県共催「ポスターグランプリ」の開催）と、東京都印刷工業組合 城南支部（社会貢献事業「Smile“紙援”Project」）の2団体が受賞に輝き、愛知県印刷工業組合の細井俊男氏と東京都印刷工業組合・城南支部の小島武也氏に山田会長よりそれぞれ表彰状と記念品が授与された。

今年度の環境優良工場表彰は14工場

引続き第16回環境優良工場表彰式に移り、今年度は商務情報政策局長賞2工場、日印産連会長賞5工場、同奨励賞7工場の計14工場の表彰が行われた。

経済産業省商務情報政策局長賞には株式会社廣済堂・さいたま工場（執行役員工場長・五日市 昭氏）と株式会社太陽堂印刷所第一工場（工場長・井原和広氏）の2工場に経済

印刷振興賞

印刷振興賞受賞者1組を代表して表彰状を受ける
藤田良郎氏（瞬報社写真印刷㈱）

印刷振興賞受賞者2組を代表して表彰状を受ける
田中潤一郎氏（㈲田中凸版）

特別賞

山田会長を囲んで特別賞受賞の
中部5県印刷工業組合と
東京都印刷工業組合・城南支部の受賞者

印刷振興賞受賞1組目の諸氏

印刷振興賞受賞2組目の諸氏

環境優良工場表彰

経済産業省商務情報政策局長賞
株式会社廣済堂・さいたま工場
（執行役員工場長・五日市 昭氏）

経済産業省商務情報政策局長賞
株式会社太陽堂印刷所第一工場
（工場長・井原 和広氏）

代表して日印産連会長賞を受ける
信和産業株式会社・村野 友信氏

産業省商務情報政策局コンテンツ産業課長・山田仁氏より賞状がそれぞれ授与された。

一般社団法人日本印刷産業連合会会長賞には、株式会社写真化学メディアカンパニー・草津事業所（取締役／メディアカンパニー社長・堀江正太郎氏）、トッパン・フォームズ西日本株式会社・九州工場（代表取締役社長・副島卓司氏）、信和産業株式会社・本社工場（代表取締役社長・村野友信氏）、株式会社精工・つくば工場（代表取締役会長・林健男氏）、株式会社大和紙工業・本社工場（取締役総務部長・有村義人氏）の5工場が受賞、代表して信和産業株式会社・村野友信氏に山田会長より表彰状が贈られた。

ついで、奨励賞の一般部門では、株式会社一九堂印刷所・東京工場、石川特殊特急製本株式会社・MID CENTER、株式会社セントラルプロフィックス・豊洲工場、北海シーリング株式会社・工場の4工場、小規模事業所振興部門では、秀明印刷株式会社、株式会社美生社、株式会社大熊製本の3工場が選ばれ、代表して、北海シーリング株式会社代表取締役社長の有原常貴氏に山田会長より賞状が授与された。

日印産連会長賞の5工場

今回の環境優良工場表彰では、経済産業大臣賞と日印産連特別賞は該当工場がなかった。

このあと、受賞者を代表して、印刷功労賞を受賞した秋田印刷製本株式会社代表取締役社長・大門一平氏が謝辞に立ち、「本日は日本フォーム印刷工業連合会の推薦で印刷功労賞の栄誉を賜りました。印刷会社の跡取りとして今まで多くの印刷業界の先輩、また関連業界の先輩に指導ご鞭撻を賜ってまいりました。まだ若いと思っておりましたが、このような賞を頂く年齢になったのかという感慨もあります。父が若いときから全国印刷緑友会はじめ全印工連の若い同業者と会う機会を多く与えてくれたことがここまで来られたのではないかと思います。また、父が秋田県でフォーム印刷を最初に始めたことが我が社の大きな基盤になりました。私も、我が社もまだまだ途半ばです。いろいろなことにチャレンジしています。私は地元である秋田を基盤として、震災以降の東北はひとつという力強い言葉から全国、また世界に羽ばたけるために頑張ってまいります。

小さいことを積み重ねて、まずは地域に求められる企業、地域と連携できる企業を目指し、これからも精進してまいります」と謝辞を述べ、2017年印刷の月の記念式典を終えた。

代表して奨励賞を受ける
北海シーリング株式会社・有原 常貴氏

奨励賞受賞の7工場

受賞者代表謝辞
秋田印刷製本株式会社
代表取締役社長　大門 一平氏

懇親会

印刷産業は、電力や水道と同じインフラ事業

開会挨拶・浅野健副会長

600 名を超す参加者で賑わう

「2017 年 9 月印刷の月」懇親会は、午後6時からご来賓の皆様、表彰受賞者、会員団体及び関連業界からおよそ 600 名を超す参加のもと盛大に開催された。

司会者より記念式典の無事終了が報告された後、開宴に先立ち、浅野健副会長が開宴の挨拶に立ち、「本日各賞を受賞された皆様方、おめでとうございます。これからは受賞された皆様方の祝賀会であり、また本日ご出席いただきました皆様方お一人お一人同士の懇親の場、交流の場でございます。それではただいまより 2017 年9月印刷の月懇親会を開会いたします」と述べ、開宴を告げた。

ついで、乾杯の発声に立った経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課長の山田仁氏は、「私はコンテンツ課長に就任して半年ほどになります。印刷産業は電力や水道といったインフラ事業と同じように日本を支える非常に大事な産業であると思っています。印刷の月の発祥のもとは、活版印刷の先覚者、本木昌造翁の遺徳を偲び制定されたものと聞いております。ちょうど来年政府は、明治 150 年ということで、色々行事を考えていますが、印刷産業も長い歴史とこれからの新しい未来に向かって是非とも頑張っていただきたいと思います」と挨拶。この後、高らかに乾杯を行い歓談に移った。

歓談が続く中、来年2月に開催する「PRINT NEXT」実行委員長の山本素之氏が登壇し、来年2月 10 日大阪で開催する PRINT NEXT2018 の PR を行い、多数の参加を呼びかけた。

この後、祝電披露をはさんで、宴もたけなわの午後7時すぎ、日印産連会員 10 団体の会長が登壇、全印工連会長の臼田真人氏が、「人口減少、生産人口が減り続けるといった大きな時代の変化の中で若い世代にとって印刷産業を魅力ある産業として整備することが我々事業団体の役割ではないか」と述べ、同氏の音頭で力強く手締めを行い、「2017 年9月印刷の月」の全行事を終了した。

乾杯・経済産業省商務情報政策局
コンテンツ産業課　山田仁課長

来年２月に開催する「PRINT NEXT」を
PR する実行委員長の山本素之氏

中締め・全日本印刷工業組合連合会
臼田真人会長

講演会

「地域創生の視点から印刷業界を考える」 生越 由美 東京理科大学専門職大学院教授 が講演

記念式典に先立ち、午後3時 30 分から東京理科大学専門職大学院教授の生越由美氏を招き、「地域創生の視点から印刷業界を考える」をテーマに記念講演会が開かれ、印刷産業のおかれた強み、弱みを再認識するとともに、成長戦略に繋がる貴重なヒントをいただいた。

グーテンベルグの印刷技術により技術と文化が大量生産、大量流通されるようになり工業社会が誕生しました。現在は情報産業、情報社会、脱工業社会、知識産業社会などと呼ばれますが、私は知識社会と呼ばせていただきます。

先進国は第3次産業が GDP の産業比率を高めるという傾向にあります。中身は観光、エンターテイメント、金融、医療、福祉、教育、司法です。

しかし日本とドイツの第2次産業は下げ止まりの傾向が見えます。Made in Japan と Made in Germany のブランド力の評価が高いためと考えられます。

農業部門では、イタリア、カナダ、フランスが下げ止まっています。おいしい食材を世界中で売っているからです。

社会は分散化の方向にあり、知識社会は快適空間と時間というパラメータのある豊かな時間だと考えています。自分自身に快適な豊かな時間をどのように作り出すかということで近年は付加価値の源泉が技術と文化ということが見えてきました。

歴史、地域、コンテンツなどいろいろな資源が日本にはたくさんあります。こういったものを印刷の世界からどうサポートするかを考えていただきたいと思います。

地方創生で一番重要ななことは、地域が幸せになることです。

徳島県の『いろどり』というお刺身に飾る葉っぱ（つまもの）を中心にした新しい地域資源を軸に地域ビジネスを展開し、20 年以上にわたり農商工連携への取り組みを町ぐるみで行っています。

博多の万能ネギはイメージを出すためにラベルに博多帯を模して横の縞にしました。

佐賀県は有田焼で有名です。有田市に行くと、ありとあらゆるものが有田焼で作られています。地元の方には宝が見えにくいからか積極的な PR 活動が見られません。第三者の目でサポートすることが大事だと感じます。

歴史資源を活かす方策として、滋賀県では、彦根市を権利者として『彦ニャン』を商標登録しました。価値のあるものはプロテクトすることも必要です。

近年は、モノを売るという貿易戦争から観光戦争に移っています。コンテンツは人の心に長く深く入っていきますのでここも重要だと思います。

地域の活性化では水木しげるロードが有名ですが、最初は地域の努力です。そのあとアニメ映画放送、NHK の朝ドラでブレイクしまた。いろいろな調査から、努力もなしにいきなりブレイクすることはありません。

地域の産品を売るポイントは物真似をしないということです。二匹目の泥鰌はジリ貧になります。

また、権利保護にはしっかりとした契約を結ぶことも大事です。

現在の地名と昔の地名はとても重要な財産です。

加賀や博多も旧地名の方が文化を抱えているので価値があるというのが見えてきています。これを狙っているのが中国です。あらゆる地名が中国人によって先取りされています。地名は財産だということなのです。

講演会場の模様

講演する生越由美東京理科大学専門職大学院教授

最後にまとめると、具体的には地域の固有性の掘り起こし、地域資源や歴史資源の発掘、コンテンツ資源の活用、きれいで魅力的な印刷物、付加価値を伝えるメディアの制作などビジネスチャンスがいっぱい転がっています。積極的な取組みに期待しています。

知識社会のキーワードはグローバル、もうひとつは地域の固有性、多様性とも言えます。

こういったところを踏まえると技術と文化の両面で地域産業のブランド化、グローバル化の支援をお願いしたいと思います。（文責・事務局）

講師のプロフィール

昭和 57 年東京理科大学薬学部を卒業、経済産業省特許庁に入庁。審査官、審判官を経て、平成 15 年特許審査第二部上席総括審査官（室長）その後、政策研究大学院大学助教授を経て、現在に至る。

公職歴は、知的財産戦略本部コンテンツ・日本ブランド専門調査会委員、IT 戦略本部農業分科会構成員、農林水産省知的財産戦略検討会委員など。

著書に『社会と知的財産』、『デジタル時代の知的資産マネジメント』など多数。